

第13回 筑波遺伝子組換え実験安全委員会議事要旨

日 時： 平成29年10月13日（金） 13時30分～15時20分
場 所： 国立研究開発法人理化学研究所 筑波地区 バイオリソース棟1階 森脇和郎ホール
出 席： 委 員：高橋委員長
 徳永、塩田、長、中嶋、阿部、小林、西條、川嶋 各委員（順不同）
理 研：船田所長、小幡センター長
事務局：筑波 安全管理室（田口、鯉渕、高橋、鈴木）

1. 所長挨拶

開会に先立ち、船田所長より挨拶及び委員交代の紹介があった。

2. 委員会開会

高橋委員長より、開会の挨拶があった。

3. 資料確認

事務局より、配付資料の確認があった。

4. 第12回筑波遺伝子組換え実験安全委員会議事要旨の確認

事務局より、第12回筑波遺伝子組換え実験安全委員会（平成28年11月11日開催）議事要旨について、既に確認を終え、ホームページに掲載している旨、報告があった。

5. 報告事項

(1) 遺伝子組換え実験申請審査等実施状況報告について

事務局より、資料に基づき、前回報告から現在までに行われた軽微変更並びに追記を行った実験計画について報告があった。

(2) 安全管理状況報告について（平成28年度）

事務局より、資料に基づき、平成28年度の安全管理状況について報告があった。

6. 審議事項

(1) 遺伝子組換え実験申請（新規）について（1課題）

小幡センター長より、創薬細胞基盤開発チームの発足について説明があった。その後、実験責任者より、遺伝子組換え実験申請について説明があり、審議の結果、実験の区分、拡散防止措置の区分については適法であると判断した。しかし、実験実施場所については設備等の整備完了後の確認を要するため、委員会での審査は継続することとした。

主な質疑応答は以下の通り。

受付番号	課題名	実験責任者
T新2017-001	理研BRC疾患iPS細胞を利活用した疾患解析に関する創薬研究開発	創薬細胞基盤開発チーム 井上 治久

質問. 動物の飼育施設はあるのか。

回答. 理研では1週間以上の飼育をする場合、飼育施設が必要であるが、その意味での飼育施設は設けない。

- 質問. P1レベルとP2レベルの実験は同時に行えないと思うが、どのように管理するのか。
- 回答. 執るべき拡散防止措置がP1レベルとP2レベルの実験を同時に行うときは、実験の区域を明確に区別する。
- 質問. 時間を変えてレベルの違う実験を行う場合は、実験従事者が実験室に入室する際、実験室内で行われている拡散防止措置について認知する必要があると考えるが、どのように管理するのか。
- 回答. 実験室の入口に、P1レベルの実験を行う際には「関係者以外立入禁ず」、P2レベルの実験を行う際には加えて「P2レベル実験中」と表示し、実験室に入室する前に実験室内においてどの拡散防止措置レベルの実験が行われているか分かる状態にする。
- 質問. 経験年数の短いスタッフが実験従事者となるが、管理はどのようにするのか。
- 回答. 実験責任者を含めて、経験年数の長い研究員が中心となり指導を行う予定である。ただし、申請書に実施年数が短く記載されているため、修正する。
- 質問. 京都府で実施するということが、この課題は今後も本委員会で審査するのか。
- 回答. 理研BRCに所属するチームであるため、今後も本委員会でご審査いただきたい。

(2) 遺伝子組換え実験申請（変更）について（9課題）

各課題の実験責任者又はその代理者より、遺伝子組換え実験申請（変更）について説明があり、これを審議し、いずれの申請についても了承した。

主な質疑応答は以下のとおり。

受付番号	課題名	実験責任者
T変2017-001	バイオリソース事業を目的とした動物遺伝子材料の品質検定に関する研究及び組換え体の維持管理	実験動物開発室 吉木 淳

質問. 追加する核酸はバイオリソース事業として寄託予定のマウスに導入されている核酸か。

回答. そのとおりである。

受付番号	課題名	実験責任者
T変2017-002	バイオリソース事業を目的とした植物DNAの増殖、解析、タンパク生産及び提供	実験植物開発室 小林 正智

質問. 概要欄の「遺伝子等植物または共存微生物由来DNA」という表記は「植物または共存微生物由来のDNAで、遺伝子等を含んでいる」という意味か。

回答. そのとおりである。また、前半の植物に関する部分はこれまでと同じ内容である。共存微生物由来DNAは核酸を解析し、種名の特定を行うのみである。

受付番号	課題名	実験責任者
T変2017-003	バイオリソース事業を目的とした形質転換植物の作製、増殖、解析と提供	実験植物開発室 小林 正智

説明に対する特段の意見はなかった。

受付番号	課題名	実験責任者
T変2017-004	ジーンバンク事業を目的とした遺伝子材料の品質検定に関する研究及び組換え体の保管管理	遺伝子材料開発室 村田 武英

質問. すべての核酸が不特定DNA断片である理由は何か。

回答. 寄託される様々な核酸に対応するためである。

受付番号	課題名	実験責任者
T変2017-005	組換えウイルスの品質検定、保管管理に関する研究	遺伝子材料開発室 村田 武英

質問. 多数の蛍光タンパク質等の追加を申請しているが、これらを用いた研究をするとも、バイオリソースとして整備するのか。

回答. そのとおりである。

受付番号	課題名	実験責任者
T変2017-006	増殖分化に係わる蛋白因子の分子生物学的研究	遺伝子材料開発室 村田 武英

説明に対する特段の意見はなかった。

受付番号	課題名	実験責任者
T変2017-007	遺伝子導入培養細胞、胚、動物の作製およびこれらを用いた胚操作技術の開発	遺伝工学基盤技術室 小倉 淳郎 (代理者:井上 貴美子)

質問. 実験従事者の経験年数が別の課題と整合性がとれないため、記載を修正した方が良い。

回答. 確認し、修正する。

質問. 他機関から譲受した生殖巣片に対し、直接実験操作を行うのか。

回答. 譲受した生殖巣片を、マウスへ移植等の操作を行う。

質問. 生殖巣片は組織という扱いになるのか。

回答. 組織である。

受付番号	課題名	実験責任者
T変2017-008	哺乳類発生過程の包括的解析	疾患ゲノム動態解析技術開発チーム 阿部 訓也

説明に対する特段の意見はなかった。

受付番号	課題名	実験責任者
T変2017-009	植物および酵母遺伝子の遺伝子導入実験系による機能解析	機能開発研究グループ 篠崎 一雄 (代理者:藤田 美紀)

質問. キヌアについては、ゲノムライブラリーの作成を目的としているのか。

回答. 現在用いている植物の遺伝子について、キヌアの相同遺伝子を用いて研究する予定であり、現時点でゲノムライブラリーの作成予定はない。

(2) 遺伝子組換え実験申請 (継続) について (5課題)

各課題の実験責任者又はその代理者より、遺伝子組換え実験申請 (継続) について説明が

あり、これを審議し、いずれの申請についても了承した。

受付番号	課題名	実験責任者
T継2017-001	細胞バンク事業を目的とした細胞株の保管管理	細胞材料開発室 中村 幸夫

説明に対する特段の意見はなかった。

受付番号	課題名	実験責任者
T継2017-002	レンチウイルスベクターを用いた幹細胞の自己複製と分化の制御メカニズムの解明と遺伝子治療への応用	細胞材料開発室 中村 幸夫

説明に対する特段の意見はなかった。

受付番号	課題名	実験責任者
T継2017-003	各種組換えマウスの新規表現型解析と疾患関連遺伝子機能の解析	マウス表現型解析開発 チーム 若菜 茂晴 (代理者：古瀬 民生)

説明に対する特段の意見はなかった。

受付番号	課題名	実験責任者
T継2017-004	マウスモデルを用いたヒトがん新規治療標的探索ならびに新規治療薬の開発	疾患モデル評価研究開 発チーム 土岐 秀明 (代理者：美野輪 治)

説明に対する特段の意見はなかった。

受付番号	課題名	実験責任者
T継2017-005	発生・分化・疾患に関連した転写制御機構の研究	眞貝細胞記憶研究室 石井 俊輔

説明に対する特段の意見はなかった。

7. 答申取りまとめ

答申を取りまとめ、本日付けで委員長より所長に答申することとした。

8. 委員会閉会

小幡センター長より、挨拶があった。

以上